

会派名		沼田創生会	委 員 名	小野塚正樹
1	期 日	令和7年2月21日		
2	調査事項	スマートエネルギー展等の調査		
3	所 感	調査後の考察（感想、政策提言、本市にどのように活かせるか など）を記入		

【スマートエネルギーWeek/脱炭素経営 EXPO/サーキュラー・エコノミーEXPO 参加レポート】

1. 企画展の概要

(1) スマートエネルギーWeek スマートエネルギーWeek では、最新の再生可能エネルギー技術や省エネルギー対策について展示・講演が行われた。特に、次世代太陽光発電や蓄電池技術、水素エネルギーの最新動向が紹介され、地域レベルでの導入可能性について議論が交わされた。特に、水素社会の実現に向けた取り組みに大きな可能性を感じた。

(2) 脱炭素経営 EXPO 脱炭素経営 EXPO では、企業が CO2 排出削減を進めるための具体的な戦略や技術が紹介された。特に、

- ・ 再生可能エネルギーの導入促進
- ・ カーボンニュートラルに向けた企業の事例
- ・ 地方自治体との連携による持続可能な社会の構築 などが主なテーマとして扱われた。また、Jクレジットの活用事例も紹介され、農業・林業分野への応用可能性についても議論された。沼田市においても、農業分野での展開の可能性が広がると感じた。

(3) サーキュラー・エコノミーEXPO サーキュラー・エコノミーEXPO では、資源の効率的利用と廃棄物削減を目的とした技術や取り組みが紹介された。

- ・ 廃棄物のリサイクル技術
 - ・ サーキュラー・エコノミーを活用した新しいビジネスモデル
 - ・ 地域での資源循環の成功事例 が取り上げられ、自治体と企業の連携が求められる分野として注目を集めた。特に、バイオマスの活用に関しては、ごみ処理場の廃エネルギーを利用することの重要性が強調された。これは沼田市が広域で建設するごみ処理場のエネルギーを活用することの必要性を感じた。
- 更に活用方法として企業誘致の交渉カードとしてのこのエネルギーを検討する企業は多いのではないかと直感し、この後予定される一般質問に盛り込む

2. 沼田市における適用可能性

(1) 強みと課題

- ・ 強み
 - 自然エネルギー資源が豊富で再生可能エネルギーの導入に適している。
 - 企業や行政が環境意識を高め、脱炭素経営に積極的。

- 循環型社会の形成に向けた地域資源の活用が可能。
- Jクレジットの活用による農業分野への展開が可能。
- 課題
 - 既存のインフラが脱炭素対応に適應できていない。
 - 住民の意識向上と協力が不可欠。
 - 事業者との連携がまだ発展途上。

(2) 具体的な施策提案

- 再生可能エネルギーの導入促進
 - 太陽光や水素エネルギーを活用した地域発電の推進。
 - 地元企業と協力したエネルギー効率化プロジェクトの実施。
 - 水力発電の推進
- 脱炭素経営の支援
 - 企業向けの CO2 削減補助金制度の導入。
 - 市内の公共施設における省エネ技術の導入。
 - Jクレジットを活用した農業支援プログラムの策定。
- サーキュラー・エコノミーの推進
 - 廃棄物のリサイクル強化と資源循環の促進。
 - 地域住民と事業者の協力によるゴミゼロ運動の推進。
 - ごみ処理場の廃エネルギー活用策の検討。

3. 今後の進め方

- 企業・自治体・住民が連携し、脱炭素・循環型経済の実現に向けた取り組みを強化。
- 国の補助制度や技術支援を活用し、実証実験を行いながら施策を調整。
- 市民向けの啓発活動を強化し、意識改革を促進。
- 一般質問を通じて、各施策の具体化を進め、事業を前進させる。

4. まとめ

本イベントへの参加を通じて、沼田市においてもスマートエネルギー、脱炭素経営、サーキュラー・エコノミーの概念を積極的に取り入れることで、持続可能な地域社会を構築する可能性が示された。特に、水素社会の実現、Jクレジットの農業分野への活用、バイオマスエネルギーのごみ処理場での活用といった具体的な施策に注力し、一般質問を通じて事業化を進めることが重要である。

一般質問の議題として提案し政策立案を実行していく。